

# 社会科学学習指導案

日 時 令和2年5月29日(金)

1年C組35名

会 場 1C教室

## 1 小単元名

歴史的分野 第2章1節 世界の古代文明と宗教のおこり

## 2 小単元について

### (1) 生徒観

これまで生徒は、中学校学習指導要領(以下、指導要領)地理的分野のA「世界と日本の地域構成」を学習してきた。小学校で学習した世界の国々の知識や関心を生かし、地図帳や資料集を基に調べたり、考察したことを4人グループで検討したりする学習を行ってきた。学習の過程で生じた疑問を学級全体に投げかけ、集団の力で解決するような場面も見られ、たいへん良い雰囲気です。さまざまな考えが授業を深く、豊かにしていくことを大切にしていきたい。本来であればB「世界の様々な地域」までを学習し、人々の生活が自然及び社会的条件から影響を受けることや、世界の人々の生活の多様性、主な宗教の分布についてまでを学習して本小単元に向かう計画であったが、新型コロナウイルスの影響から実現に至っていない。また集団として関わる時間が十分ではないという現状もあり、「中1ギャップ」や長い休業のストレスなどが心配されるので、授業でもより細やかな変化を見逃さないよう配慮したい。

### (2) 教材観

およそ700万年から600万年前に誕生したとされる人類は、生まれ故郷のアフリカから各地に広がり、数百年をかけて世界各地に広まった。厳しい自然環境の中、道具と火、衣服の力を借りて数百年に渡って生き延びた人類の壮大な冒険は、「グレートジャーニー」とも言われている。狩猟や採集をしながら移住生活をしてきた人々が、氷河期が終わると中緯度の乾燥地帯で農耕や牧畜による定住生活を営むようになり、そこに文明の礎が築かれた。大河を中心とした文明は、大規模な灌漑工事や、周辺の国々との争いを通して文明を発展させていった。また人間の力を超えるものの存在から神を意識するようになり、宗教が成立していった。

本小単元は、指導要領歴史的分野のB「(1) 古代までの日本」を構成する小単元「(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり」について取り扱う。指導要領の社会科改定の要点に、「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」があげられたことから、一つひとつの歴史的事象を個別に捉えるのではなく、より広い視野で背景をとらえていくような学習が求められているといえる。古代の日本は中国を中心とした東アジアから強い影響を受けた国づくりを行っていき、その際の背景として本小単元はまさに重要な位置づけにあると考える。生徒の歴史的な見方・考え方を働かせて小単元と小単元をつなぎ、いずれは単元やもっと大きなまとまりで歴史の流れをとらえられることを目標に学習を展開したい。

### (3) 教科研究との関わり

#### 研究の視点1「問いをつなぐ」ことを意識した批判的思考力を高める学習プロセス(真正の学び場の設定)

「真正な学び」については、現実問題に即した課題解決場面の設定と、教科の本質に即した学びの場の設定とがあるが、本小単元では後者の立場から授業を構想する。「批判的思考力を高める学習プロセス」

(教科論【図】及び【表】)を本小単元に位置付けると、「①問いを持つ」段階は1時間目である。人類の出現と生活の仕方、進化の過程について学習する中で、人類が定住生活から古代文明を成立させたことに目を向けさせ、小単元を貫く学習課題を設定する。「②問いを深める」段階は2～4時間目で、四大文明、ギリシャ・ローマの文明、宗教のおこりについて学習する。「③問いをつなげる」段階は5～6時間目で、これまでの学習の積み重ねを生かして単元の学習課題の解決を図るとともに、学習の過程で生じた自分自身で発見した課題についても追究する。つまり一単位時間で学習を完結させず、単元全体として大きな問いの解決に向かっていくデザインである。一単位時間の学習が次の時間の学習に円滑につながるために、本時とつなげる形で次時の予告を行い、生徒の興味関心を持続させるよう工夫したい。

#### 視点2 学びの自覚化を促す学習評価

学習評価について二宮(2015)は「学習改善のための情報が教師から子どもに提供されたとしても、そ

れを子どもが理解し、それを生かす学習行動を行わない限り、形成的評価はその目的を達することができず、「テストの点数や評定といった数値情報は学習改善のための手がかりを何ら子どもにもたらさない」と指摘している。さらに「子どもたち自身に学習改善を進める能力（メタ認知能力）を育成すること」が大切であり、そのためには「相互評価や教師との対話によって評価基準を共有すること」など「学習の場として『評価活動』を位置付け、そこへ子どもたちを主体的に参加させていく必要がある」としている。このことから単元の中で行う振り返りは、本小単元を貫く学習課題についての考えを記述するものとし、そのうち3回（1時間目、3時間目、4時間目）は形成的な評価を行う。3分前学習の中で級友と意見交換をしたり、教師からフィードバックを受けたりする中で自分自身の考えを洗練させていく。なお入学後初めて取り組むパフォーマンス課題であることを考慮し、最初の基準はある程度教師から示したり、優れた発表の具体的な良さを取り上げたりして、今後の学習につなげさせたい。

**視点3 社会科における情報や情報通信技術の効果的な活用**

情報の活用能力（情報を正しく読み取っているか、そもそもその情報は正しいのか、必要な情報の収集方法など）と、情報通信技術（ICT）の積極的な活用のうち、本単元では前者に主眼を置いて授業を構想する。

**3 小単元の目標**

- 世界の古代文明や宗教が、どのような地域や環境の下でおこったかを理解するとともに、資料から世界の古代文明や宗教の歴史について調べたり、収集した情報をまとめたりする技能を身に付けるようにする。  
【知識及び技能】
- 古代文明と宗教のおこりについて、古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して多面的・多角的に考察したり、それを説明したりする力を養う。  
【思考力・判断力・表現力等】
- 世界の古代文明と宗教のおこりについて、そこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。  
【学びに向かう力、人間性等】

**4 単元計画**

**(1) 評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・世界の古代文明や宗教のおこりに関する資料を読み取ったり、それらをまとめたりすることを通して、世界の古代文明や宗教が、どのような地域や環境の下でおこったかを理解している。	・古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の古代文明と宗教のおこりについて、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

**(2) 指導と評価の計画**

※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

時	単元を貫く問い	<ul style="list-style-type: none"> <li>働かせたい見方・考え方</li> <li>学習内容</li> <li>◆指導の留意点</li> </ul>	評価の観点			見とりの視点 【評価方法】
			知技	理解	態度	
1	古代文明は、私たちの生活にどれくらい影響を与えているだろうか？	学習課題 人類は進化の過程で、どのように生活を変化させてきたのか？～グレートジャーニー～ <ul style="list-style-type: none"> <li>人類の出現と生活の仕方、進化の過程を資料から読み取る。</li> <li>旧石器時代と新石器時代の変化に着目して表にまとめる。</li> <li>推移</li> <li>定住生活が古代文明の誕生につながったことをおさえ、小単元の学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。</li> <li>四大文明の代表的な遺跡を提示し、次時の課題への関心を高める。</li> </ul>	●		○	単元の学習課題について、現時点での考えを記述し、学習の見通しをもっているか。 【OPPシート①】
2	現代とのつながり	学習課題 四大文明は、なぜそこでおこったのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>四大文明の代表的な遺跡と附中の校舎の大きさを比較する。</li> <li>四大文明がおこった場所や、その特徴をまとめ、学習課題について考察する。</li> <li>四大文明の共通点に気づく比較。</li> </ul>	●		○	単元の学習課題について、現時点での考えを記述し、次時につなげようとしているか。 【OPPシート②】

	古代文明は、私たちの生活にどれくらい影響を与えているだろうか？ 現代とのつながり	・ギリシャ・ローマ文明の勢力範囲や広大な領域を見て、次時への関心を高める。			
3		学習課題 ギリシャ・ローマの文明は、広大な領域をどのようにして治めたのか？	●	○	本時の学習課題について、法律の整備や民主的な政治に着目してまとめているか。 <b>【ワークシート、発言】</b>
		・ギリシャ・ローマの文明がおこった場所と、その特徴をまとめ、学習課題について考察する。 ・当時と現代の民主政治の相違点に気づく【比較】。 ・主な宗教の開祖や聖地の画像を見て、次時の課題への関心を高める。			
4		学習課題 三大宗教は、なぜ多くの人に信仰されているのか？	●	○	単元の学習課題について、現時点での考えを記述し、次時につなげようとしているか。 <b>【OPPシート③】</b>
		・三大宗教がおこった場所や開祖、教えなどをまとめ、交流を通して学習課題について考察する【比較】。 ・カースト制度と仏教の成り立ち、ユダヤ教とキリスト教の成り立ち、ローマ帝国による国教化とキリスト教の広がりなどの関連に気づき、三大宗教について理解を深める。			
5		・単元の学習課題について、思考ツール（ピラミッドチャート）で整理し、発表する。 ・交流後の自分の考えを単元の振り返りとして OPP シートに記述する。 ・小單元の中で見つけた疑問点を交流し、次時の課題を把握する。		○	○
6	・各自の追究課題について、書籍やインターネットを用いて解決を図る。			○	意欲的に追究課題を解決しようとしているか。 <b>【ワークシート】</b>

## 5 本時について

### (1) 主題

宗教のおこりと三大宗教

### (2) 評価規準

- ① 宗教のおこりについて、見通しをもって学習に取り組もうとし、資料を基に考察した内容を平易な言葉で端的に話したり学習を振り返ったりしながら課題を追究しようとしている。

**【主体的に学習に取り組む態度】**

- ② 資料から宗教のおこりに関する情報を読み取ったり、それらをまとめたりすることを通して、三大宗教が、どのような地域や環境の下でおこったかを理解している。 **【知識・技能】**

### (3) 授業構想

本時で取り扱う宗教は、現代社会でも人々を動かす大きな要因となっており、アメリカ大使館のエルサレム移転やイスラム過激派の活動など、それは時に国や世界を揺るがすほどの大きな出来事となることも少なくない。文化庁の宗教統計調査（2019）によると、日本のおよそ9割の国民は仏教か神道を信仰しており、日常生活の中にもそれらに関連した行事が多い。しかし我々日本人の日常生活における宗教への関心は決して高いとはいえず、電通総研・日本リサーチセンターの調査によれば日本人のおよそ6割～7割は無宗教、つまり特定の宗教を信仰しないか、信仰そのものを持たないという思想を持っていることが報告されている。このような現状から特に国外において宗教への信仰が人々の思想や行動に強く影響を及ぼしていることを理解することは、グローバル社会を生きる上で大切な知識であると考え、本小単元の授業を構想した。

世界には無数の宗教があるが、三大宗教を信仰する人々だけで6割以上をしめるということから本時の学習課題を設定する。展開では教科書と資料集など手持ちの資料を使って調べ、読み取った情報を根拠として学習課題について考察させる。生徒から出された考えをつなぎ、全体の考えとなるようコーディネートに努めたい。終結では宗教どうしの関連を示す資料を提示し、さらに関心を高めたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等 【 】資料	時間 (分)	評価規準および評価 ・指導の留意点 ●○評価
導入	1 資料の読み取り 【世界の宗教別人口割合】 ・宗教は無数にあるが三大宗教が占める割合が多い。	5	
	2 学習課題の設定		
<b>三大宗教は、なぜ多くの人々に信仰されているのか？</b>			
展開	3 予想 ・素晴らしい内容だったから。 ・広める（布教する）人が多くいたから。 ・尊敬される人物がったから。 ・苦しい生活をしてきた人が多くいたから。	10	・生徒の予想をまとめ、読み取りの視点となるようコーディネートする。
	4 資料の読み取り 【仏教・キリスト教・イスラム教】（資料集） 【宗教のおこり】（教科書）	10	・グループ（4人）で3つの宗教を分担して調べさせる。
	5 交流と考察 ・三大宗教が説かれた背景には、それぞれ苦しい時代背景があった。 ・三大宗教は他の宗教と異なり、人種や民族など関係なく、全ての人を対象にしている。 ・キリスト教は広大な領域を治めていたローマ帝国の国教となっていたから広まった。	15	・調べた内容をグループで交流し、学習課題について考察させる。 ・生徒の思考が深まるよう発言をコーディネートする。 ○評価規準① 資料を基に考察した内容を、平易な言葉で端的に話そうとしているか。【態度】
終結	6 まとめ		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     生徒の記入例) 三大宗教は苦しい時代を生きた人々の救いとなり、人種や民族に関係なく全ての人を対象としていたので、今も多くの人々に信仰されている。                 </div>		
	7 学びの振り返り ・OPPシートに単元の学習課題についての考えを記入する。	10	●評価規準② 三大宗教が、どのような地域や環境の下でおこったかを理解しているか。【知・技】
	8 次時の予告 【仏教とヒンドゥー教の神様】 ・違う宗教に同じような名前や役割をもつ神様がいるのは、何かつながりがあるのではないか。		

【参考文献】

- 出口治明 (2019) 『哲学と宗教全史』ダイヤモンド社  
 宮崎正勝 (1998) 『早わかり世界史』日本実業出版社  
 中村尚哉 (2019) 『古代史マップ～世界を変えた帝国と文明の興亡～』日経ナショナルジオグラフィック社  
 二宮衆一 (2015) 「教育評価の機能」, 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編『新しい教育評価入門』有斐閣 p. 69 pp. 72-73